GM 鶴牧-3 環の会

# 第 24 回クラシックを楽しむ会

2015 年 8 月 16 日（日）18:00～21:30

## 喜歌劇「メリー・ウィドゥ」（レハール）

メリー・ウィドゥ・ワルツを踊るハンナとダニロ

会場等：　東京文化会館（2012 年 5 月 24、26 日）
　　2012 年ウィーン・フォルクス・オーパー引越公演
楽団等：　ウィーン・フォルクスオーパー管弦楽団、
　　同合唱団、ウィーン国立バレエ団
指揮　：　エンリコ・ドヴィコ
演出・美術　：　マルコ・アルトゥーロ・マレッリ
出演　：　クルト・シュライプマイヤー（ミルコ・ツェータ）
　　ユリア・コッチー（ヴァランシェンヌ）
　　アンネッテ・ダッシュ（ハンナ・グラヴァリ）
　　ダニエル・シュムッツハルト（ダニロ・ダニロヴィッチ）
　　メルツァード・モンタゼーリ（カミーユ・ド・ロション）
　　ロベルト・マイヤー（ニェーグシュ）
　　その他

アネッテ・ダッシュとシュムッツハルト夫妻
（ハンナ）　（ダニロ）

ユリア・コッチー
（ヴァランシェンヌ）

モンタゼーリ
（ロション）

マイヤー総監督
（ニェーグシュ）

マイヤー扮するニェーグシュ

**あらすじ**

舞台はパリのポンテヴェドロ公国公使館庭園、大公の誕生日祝賀パーティー。公国の富豪の未亡人ハンナ・グラヴァリと元恋人で公使館書記官ダニロ・ダニロヴィッチ伯爵、公使のツェータ男爵とその妻ヴァランシェンヌおよびヴァランシェンヌの恋人カミーユが主な登場人物。

国を憂えるツェータ公使は、もしハンナ未亡人が外国人と再婚すると莫大な資産流出で公国が破滅することから、ハンナを同国のダニロと結婚させようとしている。

**聴きどころ**

第 1 幕**「ダニロ登場の歌」**（マキシムの歌）、第 2 幕ハンナが歌う有名な**「ヴィリアの歌」**、男たちの七重唱**「女の研究は難しい」**、ダニロの**「昔、王子と王女がおりました」**、第 3 幕カンカン踊り、ハンナとダニロの二重唱**「唇は黙し」**（メリー・ウィドウ・ワルツ）などみどころ聴きどころ満載！

**第 25 回クラシックを楽しむ会（予告）**

タイトル：**歌劇「オテロ 」（ヴェルディ）**

**9 月 27 日（日）** 17 時 30 分開場、18 時上映開始

ナポリ・サン・カルロ劇場のシェクスピア生誕 450 年記念公演。マルコ・ベルティ、リアンナ・ハロウトゥニアン、ロベルト・フロンターリ等豪華キャストと見事な舞台。

10 月以降は、ザルツブルク音楽祭の「ばらの騎士」、パヴァロッティの「リゴレット」、オペラ座バスチーユ劇場の「夢遊病の女」などを予定。

# あらすじ

**【時と場所】**

1905 年当時のパリ

**【登場人物】**

| | |
|---|---|
| ハンナ・グラヴァリ（ソプラノ） | ポンテヴェドロ国老大富豪の未亡人 |
| ダニロ・ダニロヴィッチ伯爵（バリトン） | パリ駐在ポンテヴェドロ国公使館付書記官<br>ハンナのかつての恋人、退役騎兵中尉 |
| ミルコ・ツェータ男爵（バリトン） | パリ駐在ポンテヴェドロ公使 |
| ヴァランシェンヌ（ソプラノ） | ツェータ男爵の妻、元マキシムの踊り子 |
| カミーユ・ド・ロション（テノール） | パリ社交界の伊達男、ヴァランシェンヌの浮気相手 |
| ニェーグシュ（俳優） | ポンテヴェドロ公使館員、元マキシムのボーイ長 |

マキシムの踊り子（ロロ，ドド，ジュジュ，クロクロ，フルフル，マルゴ）

**【第 1 幕】 パリにあるポンテヴェドロ国の公使館**

パリのポンテヴェドロ公使館。公使のツェータ男爵の悩みは、東欧の小国ポンテヴェドロの大富豪未亡人ハンナがパリに住居を移したこと。もしハンナがパリの男と再婚したら、莫大な遺産が母国から流出して国の存亡に関わる。そこでツェータ男爵は、公使館の書記官ダニロ伯爵を彼女と結婚させて、遺産が他国に流出するのを食い止めようとする。

実は、ダニロとハンナは過去に愛し合っていた仲だったが、身分の違いからダニロの親族が反対したため、結婚できなかったという経緯があった。ダニロは、大金持ちとなったハンナに、いまさら結婚したいと言い出せない。ハンナも意地があり、素直になれない。

**【第 2 幕】 パリにあるハンナの邸宅の庭園**

翌日、ハンナ邸で開かれた夜会で、ツェータ男爵の妻ヴァランシエンヌが、パリの色男カミーユに口説かれていた。ヴァランシエンヌは自らの扇子に「私は貞淑な人妻です」と書いて誘いを断るが、ヴァランシエンヌはとうとうカミーユの誘惑に負けて庭の小屋で二人きりになる。

それに気付いたのが夫のツェータ男爵。怒って現場を押さえようとすると、小屋から出てきたのはカミーユとハンナ。ヴァランシエンヌを救うためにハンナがうまく入れ替わったのである。そして成り行きでハンナは、カミーユとの婚約を発表する。ダニロはそれを聞いて動揺が隠せない。彼の動揺する姿から、ハンナは自分への愛を確かめることができたのである。

**【第 3 幕】 マキシム風に飾り付けたハンナの邸宅**

ダニロは、祖国存亡の名目もあり、ハンナとカミーユの結婚を阻止しようとハンナを説得。カミーユとの結婚はなくなり、ダニロとハンナは和解するがダニロは結婚を申し込もうとしない。

このときハンナは、亡夫の遺言「再婚するなら、彼女は全財産を失う」を明かす。それを聞いてダニロは喜んで即座に求婚。ハンナは喜んでこの申し出を受け遺言の続きを明かす。そこには「彼女の失った全財産は、再婚相手に与える」と。

ハンナ邸の庭の小屋にヴァランシエンヌの扇子が落ちていたことから、カミーユとの一件が、ツェータ男爵の知るところとなる。ツェータ男爵がヴァランシエンヌに離婚を告げると、彼女は扇子を開くように言う。そこには「私は貞淑な人妻です」と書かれており、ツェータ男爵は妻に許しを求め、最後は一同愉快な歌で幕となる。

# マレッリの演出について

本公演の演出は、前年 2011 年から始まった新演出で、フォルクスオーパーでのプルミエ（新しい演出の上演初日）で好評を博したものである。

内容はほぼ上記のあらすじ通りで、2 部構成にしている。第 1 幕から第 2 幕の途中の男たちの七重唱「女の研究は難しい」まで続けてから幕になる。第 2 部は第 2 幕の男たちが酔いつぶれているところから始まり幕を下ろさないで第 3 幕に続く。また、恒例の「天国と地獄のギャロップ」を外している。

# 参考　（第 2 回楽しむ会の資料を改定）

## 「喜歌劇」と「オペレッタ」について

「喜歌劇」はイタリア語「オペレッタ」（小さなオペラ）の意訳語。今日演奏されるほとんどの作品はドイツ語、一部フランス語作品で歌劇と同様の、大編成、長時間作品。

オペラに対してオペレッタは基本的に「喜劇」で軽妙な筋と歌をもつ娯楽的な作品が多い。このため正統派の「オペラ」が歌劇場で上演されるのに対して「オペレッタ」は歌劇場で上演されず巨匠と呼ばれる一部名指揮者は「オペレッタ」を振らないなどの傾向があった。

## オペレッタの「黄金時代」と「白銀の時代」

19 世紀半ばドイツ出身オッフェンバックの「天国と地獄」がパリ市民の人気を博し世界中に広まった。彼のオペレッタはウィーンでスッペ、ヨハン・シュトラウスⅡ世らに受け継がれオペレッタの「黄金時代」を迎えた。ヨハン・シュトラウスⅡ世の「こうもり」がその代表である。

その後オペレッタの人気は下火になり低迷していたが、「こうもり」初演の 31 年後 20 世紀に入って初演されたレハールの「メリー・ウィドウ」が爆発的にヒットしてウィーンにオペレッタの「白銀の時代」といわれる隆盛期をもたらした。

## 「こうもり」と「メリー・ウィドウ」

「こうもり」と「メリー・ウィドウ」は共に現在最も多く上演される最高傑作であるが、ウィーンのアン・デア・ウィーン劇場初演時の人気では「こうもり」が「かなりの成功」を収めたのに対して「メリー・ウィドウ」は 500 回を超える大ヒットだった。世紀末、帝国末期の不安な時代の「現代劇」だったから洗練された娯楽を求めるウィーン市民の共感を呼んだと思われる。

## フランツ・レハール

レハール（1870 年～1948 年）は軍楽隊長だった父の任地を転々とした。プラハ音楽院に学び、ヴァイオリン奏者、軍楽隊長の後、ウィーンの劇場の指揮者になった。有名なワルツ「金と銀」作曲後、「メリー・ウィドウ」の大ヒットで一躍名声を確立、「微笑みの国」などを作曲した。政治には無関心だったが夫人がユダヤ人なのに「メリー・ウィドウ」を愛したヒトラーに優遇され、戦後はナチ協力者として非難された。

## 1905 年初演当時の政治的時代背景

普墺戦争に敗れてできた妥協のオーストリア＝ハンガリー二重帝国、バルカン半島小国に影響力をもつロシア帝国、露土戦争に敗れたオスマン帝国。それぞれ民族運動、独立運動、革命運動に揺れていた。1905 年（明治 38 年）は特別な年である。ロシア帝国は血の日曜日事件、日本海海戦敗戦、戦艦ポチョムキン反乱。オスマン帝国では後にトルコ共和国初代大統領になるケマル・アタチュルクが陸軍大学を卒業。アドルフ・ヒトラー実業学校中退 16 歳、ロシア帝国に同調したモンテネグロ公国は日本に宣戦布告、憲法を制定してモンテネグロ王国成立。

この後ロシア帝国は二月革命で、オーストリア＝ハンガリー二重帝国とオスマン帝国はドイツ帝国とともに第一次世界大戦敗戦でそれぞれ消滅する。

## フォルクスオーパー・ウィーン

1898 年に「皇帝記念市民劇場」が演劇専門の劇場としてオープン。1903 年からはオペレッタも演目に追加。1904 年、市民劇場からフォルクスオーパー（市民歌劇場）に名称を変えた。